



「夢は頭をかけめぐる」

アーシャ理事 牧野一穂

右からプロジェクトマネージャー三浦、アーシャ理事長牧野（3番目）
アーシャ副理事長飯沼淳子（4番目）アーシャ支援者飯沼一浩さん（左端）

今年2月一年ぶりにアラハバードを訪問しました。毎回現地プロジェクトの進展を見るのが楽しみです。特に自立支援プロジェクトの進展は日本で事務局を支える者として、大きな夢を抱かせてくれます。先の32号に三浦さんが書いていますが、農婦人達は農産加工に自信を持って発言、行動している姿です。味噌・醤油の加工を見学した時、麹菌の違い、良し悪しまで発言していました。短期専門家として高丸さんら皆さんがここまで御指導して下さいましたのだと感謝の思いがあふれ、またいろいろな夢が頭を駆けめぐりました。

外部の補助で行い続けている開発支援プロジェクトは慈善事業のカテゴリーに入ります。醤油・味噌の貯蔵庫を見学し、説明を聞きながら、外部の補助金や寄付に頼らない自己持続型ソーシャル・ビジネスとして会社を設立、この貧しい農婦人たちが独立した自営の企業家として自ら雇用を創出、相互理解や協力に基づいた新しいビジネス組織を始めことが出来ないものか。貧しい農婦人の持つ途方もない能力、可能性を目にして思いました。

数年前から組織化が始まったSHGプロジェクト(自助グループ)は、女性の自立、地位向上、貧困からの脱却を目標にしたマイクロ・クレジット事業です。SHGは会

員約700人、男性も17%で、独自の会を組織し参加、お互いの持ち寄った資金は合計13万ルピー（約26万円相当）で融資し合って、会員は年々増加していました。殆どの農婦人達は、家畜や種子の購入、養鶏や店を始める資金に借入、期日に利子を付けて返済していました。無担保で貸し付けると殆どの婦人は家族に利益をもたらす為に使っていました。こうした婦人達の働く意欲、やる気、家族に利益をもたらそうとする動機を刺激、SHGの婦人たちが株主になった食品加工会社が出来ないものか。51%の株主は女性、株は外部に売らない、売れない規約にする。小工場を建設、操業、宣伝、販売資金の必要を満たす為、「アーシャ」が応援、短期（約3年）の無利子の少額出費（1人5～10万、期日がきたら返済される資金）を募集、支援する。インド政府の全国農業農村開発銀行（NABARD）やSHGをサポートする政府の貧困対策支援事業に対する低利のローンを借りられるかもしれない。いずれにしても貧しい農婦人が主体的に自らの社会的、経済的、宗教的な不利益な状況を解決する方法は多々あります。彼らの自尊・自助努力を支援、励まし続けて行く決意を新たにしました。